

第25回

全国サンマッシュシユ生産協議会

全国大会盛大に開催

取り組みや実績を報告

全国サンマッシュシユ生産協議会（会長：森坪清則）主催の第25回全国大会が1月25、26日の両日、全国から生産者約600人が参加し、島根県松江市の「くにびきメッセ」で開催された。25日には総会と栽培技術研修会ならびに品評会が、26日にはJAいずも園床製造培養施設への視察研修会が行われた。



（株）北研・川嶋社長



森坪会長

集めて生産販売を推進し

て行くことを伝え、あいさつに代えた。

続いて来賓あいさつを

行った（株）北研・川嶋社長は現状に触れた後、会社

販売・消費拡大へ

昨年末からの厳しい寒波で日本海側は大雪となり、開催への影響が心配されたが、当日は各地から生産者600人が集結し盛大な大会となった。まず壇上に立った森坪会長は、サンマッシュ協議会の三大方針「①消費者に支持される安全安心な商品づくり②サンマッシュ統一ブランドの推進③女性部・青年部の設置とその活動と推進」を結



松江市「くにびきメッセ・国際会議場」で開催された

の姿勢を「厳しい販売環境を打破するために消費宣伝活動を行っています。昨年は宣伝の専門チームを組織し各イベントでサンマッシュをPRしていきます。また食育事業として小学校に園床を配布し若い世代への啓蒙を進めています。今年、会社は50周年を迎えました。創業の心を肝に命じ、今後ともみなさんと一緒に消費拡大のつねりを興して行きたいと思っております」と述べた。



仕込棟などを視察

現地視察研修会
大会2日目となる26日は、JAいずも園床製造培養施設・パッキングセンター（島根県出雲市）で現地研修会を行った。

発表 栽培法と新品種 販売促進活動

総会に引き続き開催された技術研修会では（株）北研・食用菌類研究所による講演が行われた。始めに、研究2課・高橋信課長が「サンマッシュ栽培の基本（発生技術編）」と題し、きのこの生育に必要な温度・湿度・水分、照度、空気のそれ

それぞれについて管理方法や適性値の説明を行った。さらに休養管理も重要であるとし、品種や目的ごとに違う温度と日数などの報告がなされた。

次に、研究2課・藤田寿係長が「既存品種の特性解説」と題し、北研600号・607号・700号について栽培上の利点や注意点、発生したきのこの特徴を発表。また、主要3品種の培養日数・発生サイクル・菌床の強さなどの比較イメージを提示し、参加者にも理解しやすいように伝えた。

5号について栽培上の利点や注意点、発生したきのこの特徴を発表。また、主要3品種の培養日数・発生サイクル・菌床の強さなどの比較イメージを提示し、参加者にも理解しやすいように伝えた。

次に、研究1課・山内隆弘課長が「新品種および有望株の紹介」と題し、北研715号の詳細試験データと栽培現場が紹介され、大型で肉質が非常に硬いきのこが発生するなどの特徴と栽培マニュアルが報告された。

技術研修会の最後には「販売促進活動と消費拡大への取り組みの紹介」として（株）北研・営業本部管理課・伊藤久則課長がアンケートや試食宣伝の実施、製薬部品質管理係・太田千奈主任による食育推進チームの小学校訪問などの活動報告が行われた。

回会
第21評
石井正則さん
(岡山県)

今年も全国の会員から多くの出品があった。
主な入賞者(敬称略)
久三(岐阜県、奥畑洋)
(岐阜県)

- ▽（株）北研会長賞Ⅱ（株）アルプス農場（岐阜県）
- ▽神話の心るごと島根賞Ⅱ 藤田伸一（秋田県）
- ▽特別賞Ⅱ 社会福祉法人ウイズユー（鳥取県）、下平寛（右手県）、小谷



高橋 信課長



藤田 寿係長



山内 隆弘課長



伊藤 久則課長